



11回コンサート

## メイン曲の数々レッスン進む

4月 1日

□ 4月7日(金) 18:00~20:30 品定例レッスンが開催されました。佃さんの体操と千秋さんのヴォイストレーニングのあと、本並先生の指揮で第11回コンサート曲の「フィンランディア」と「仕事の歌」「想像力」「忘れっぽい人に」を、休憩・連絡報告等をはさんで、引き続き本並先生の指揮で、「ぶどうとかたばみ」と「このみち」をレッスンしました。ピアニストは森二三さん、参加者は全37名でした。



□「フィンランディア」 espressivo (表情豊かに) 莊重に、厳(おごそ)かに、敬虔な、全世界の平和を願って “ まずこの曲の持つ情景・成立過程・ことばの持つ意味を理解して ! イメージ豊かに歌ってほしい。のんべんだらりとした気持ちや声は駄目 ! 莊重に、厳かに、声の響きをそろえて。大きな声を張り上げるだけでは・・駄目 ! まずきっちりとことばを合わせて、いい声で響かせて歌おう !

「ななつの一うみこえひびけー」:「な」の音程しっかりと。口の開け方、声の出し方、いつも言われているように。「けー」まで切らずに、フレーズの最初から最後まで、「けー」持ちこたえて !

「はるかの一ぐにのひとへー」:言葉の発音は亜矢子先生の言う、”母音はつなげて腹で支えて出し続ける、子音は早めに前に出してはつきりと“ひとへー”の「へー」広がりを持った響きを ! 下に下がった音ではない。

「ふるさとーのにうたえるー」:「るー」まで、息を保って、ぶれないで延ばす。「ふるさとーの」一瞬切って「のに・・」へ続ける。あとの「の(野)に」の「の」をしっかり発声する。「のにうたえるー」声を張り上げるだけでは駄目 ! ことばに心を込めて !

「わたしの一きぼうこそー」:「わ」の出し方「uwa」。mpからクレッシェンドして「こそ」でff、しっかりと延ばして !

「へいわへのうたごえー」:「へいわ」の「へ」の音程確保 !

(2番略)

□「仕事の歌」は「テノールソロと男声合唱のための仕事の歌(ドゥービヌーシカ)」として編曲。

1番はロシア語で、2番は原曲の2番(親は倒れ)、3番は原曲の7番(夜の闇も)をソリスト(テナー千秋さん)が歌う。掛け声のフレーズ(エーフ ドゥビーヌシカ・・)を4部で。

掛け声のフレーズ(エーフ ドゥビーヌシカ・・):

1番・3番はfで入りpからクレッシェンドfへ。2番はppで入り、クレッシェンドでf・ff。3番最後の「ウーッフ

ニエム」の「ニエム」は叫んで終わる！

□「想像力」と「忘れっぽい人に」は、前回の定例レッスン（3月31日）を踏まえて、音程の確保、キーとなる大事なことばの発声の仕方、フレーズ毎の曲の表現について、再度確認しながら声を合わせていきました。

### □「ぶどうとかたばみ」

「あさやけ ことば ひとつ はじけるー・・・」：4小節1フレーズが4つずつ続く。（起承転結）pで入って1小節ごとにスラーとスタッカートが入る。休むのではない、切れるが、気持ち・雰囲気・ことばは次につながっていく歌い方を！ プツプツ切れた歌い方では困る。

「そのままにさびつくー」：このうたは4小節ごとに情景の描写を言葉で表わすこと。しっかりと言葉にして、キーとなることば(キーワード)がはっきりと聴き手に伝わるように、母音と子音の発声をふまえて、はっきりと、情感豊かに表現すること。

23~28小節(Uh-Uh-)のパートは低音部の主旋律をよく聞いて、引き立てる声で、しっかりと音とリズムをとって！

「くるしみのはなー」：ここの和音が一つの勝負所！

下パート：「なー」下がらないこと！ 上で維持！ 中パート：「なー」弱い！ もっとしっかりとした声で！ 上パート：今の音量と音で良し！

31小節～「きょうは きのうと なにもか一もちがう」：f mf mp p 違いをはっきりと表現して！ デクレッセンド「ちがうー」でしっかり延ばして！

36小節～「lu lu lu lu……」59・60小節：rit. pp フェルマータで延ばして、a tempoで戻って次の「lu lu ulu lu…」へp mp mf fとクレッセンドする。

67小節からの転調で雰囲気を変えて！ Piu.mosso(今までより早く) risoluto(決然と、きっぱりと)

「たたかいいー や-まぬー し-ろいー わがまちー」：子音(た や し わ)早めにはっきりと出す。何を言っているかわからないのでは面白くない！ ここも勝負所！ 聽かせどころ！

「ちをはう にくしみ あおもつれ ひとなる」：難しいことばが続く。はっきりとことばに表現しよう！

「Oh Oh Oh」の声も各パート音程正しく、はっきりと！

89小節～「むねのゆうやけー」：f、フェルマーター、「む」(mu)「ゆ」(yu)はっきりと

91小節～「きょうは きのうと」：p mp

「なにもか一もちがうーー」：クレッセンドでfへ 最後の「lo lo lo lo-----」：ffクレッセンド・フェルマーター

□「このみち」は「昂ニュース 606号(末廣亜矢子声楽レッスン教室・一口メモ)」を再度見直してください。

### 昂11回コンサートコーナー

#### 「仕事の歌(原曲)」ロシア民謡

作詞 V.ボクダーノフ

訳詩 合唱団白樺

1. 悲しい歌 嬉しい歌 いろいろ聞いたけれど

忘れられぬ歌はひとつ それこそ仕事の歌

※エイ ドゥビーヌシカ ウーフニエム

エイ ゼリヨーナヤ サマパイヂョート

パ ジョールニエム パ ジョールニエム

パ ウーフニエム

2. 親は倒れ 死のまぎわに 息子に残すもの

は 貧しい暮らし 辛いさだめ 悲しい仕事の歌

※ぐりかえし

3. 親から子へ 子から孫へ それはうたいつが  
れて 身も心も 疲れたとき なぐさめ力づける

※ぐりかえし

4. シベリアへの 道は遠く 囚われは歩む

鎖の音 うつろになり 流れる仕事の歌

※ぐりかえし

5. 道の端に 山をなして うち捨てられた骨  
は 皇帝どもの 手なぐさみに 殺された者の骨

※ぐりかえし

6. おごる者ら ほしいままに 酒に溺れる陰で  
積もる雪の 下にあえぐ 哀れなロシアの民

※くりかえし

7、夜の闇も やがては去り 苦しむ民は目覚め  
皇帝どもを 倒すとき 歌わん仕事の歌  
※くりかえし

原題「ドゥビヌーシカ」は、「棍棒」「丸太ん棒」の意味。

労働のための道具でもあり、圧制に抗して起ち上がった民衆の武器ともなった。

歌詞はボグダーノフが1865年に発表したものを85年にオリビンが改作した後、革命歌として一般に広まった。世界的なバス歌手シャリアピンのレパートリーでもあった。

「ヴォルガの舟曳き歌」と同じ性質の歌であるが、現在の歌詞には、政治的部分が失われている。

ドウビヌーシカは綱をまく口クロの軸木のこと、曳綱のロクロを巻きながら歌う波止場人夫の歌である。

1905年の革命当時、さかんに歌われたのでツァーはどうこうこの歌を禁止してしまった。

(「仙台ロシア合唱団団員の部屋」より引用)

「日本全体が米の“防波堤”に」—辺野古、高江、宮古、石垣で起きていること  
映画「標的の島 風(かじ)かたか」上映中！  
4月8日～5月12日 第七藝術劇場(大阪・十三)にて



4/8(土)よりロードショー

- 4/8 木 ~4/14 木 10:00/12:30
  - 4/15 金 ~4/21 木 10:00/14:20
  - 4/22 金 ~4/28 木 15:10
  - 4/29 土 ~5/5 木 19:30
  - 5/6 木 ~5/12 木 16:15

新規刊行本

新規会員登録手数料5分/十三銀行支店窓口よりお申  
第七銀行開業  
06-6302-2073  
[www.nanagei.com](http://www.nanagei.com) \_gei

No.608(3/3)